

令和8年度

センターガイド



国民の森林・国有林

林野庁 東北森林管理局

森林技術・支援センター

— 森林技術・支援センターとは？ —

森林・林業の情報発信拠点

東北森林管理局森林技術・支援センターは、国有林を活用し、東北地方の地域特性に応じた森林づくりの技術開発と民有林への技術支援を行う情報発信拠点です。

沿革

- 平成7年3月 青森営林局 森林技術センター開所
(旧中里営林署庁舎)
- 平成11年3月 東北森林管理局 森林技術センターに改称
- 平成25年4月 東北森林管理局 森林技術・支援センターに改組
- 令和3年7月 庁舎の建替工事が完了し、新庁舎で執務開始

▼ 外観

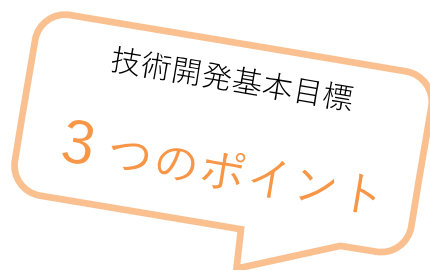


▲ 階段 (CLT材) ▲ 1階ホール (CLT材、ヒバ丸太柱)

— どんな仕事をしているの？ —

森林・林業・木材産業によるグリーン成長

国有林野事業は、多様な森林とまとまりのあるフィールドを管理し、事業の実施主体という特性があります。これらを活かしつつ、民有林への周知・普及を念頭に、当センターでは3つの目標に向けて取り組んでいます。



ポイント 1



✓ 「新しい林業」の実現に資する取組

伐採から再生林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする取組を展開。

ポイント 2



✓ 公益的機能の高度発揮

公益的機能の高度発揮のための森林施業及び保全技術を確立する。

ポイント 3

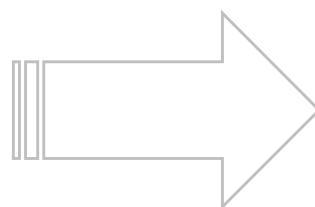


✓ 効率的な森林管理

効率的な森林管理及び健全な森林の育成技術を確立する。

これらのポイントを踏まえつつ、

3つの技術開発課題に取り組んでいます！



— 主な技術開発課題 —

当センターの試験地は、東北地方の各地に設定しており、各地域にある出先機関、大学、研究機関等の協力を得ながら調査を実施しています。

課題 2



ヒバ天然林施業の
調査データ収集と解析

技術開発期間：R7～R26

場所：津軽森林管理署金木支署

課題 1



早生樹（ユリノキ）の
更新特性等と需給実態
について

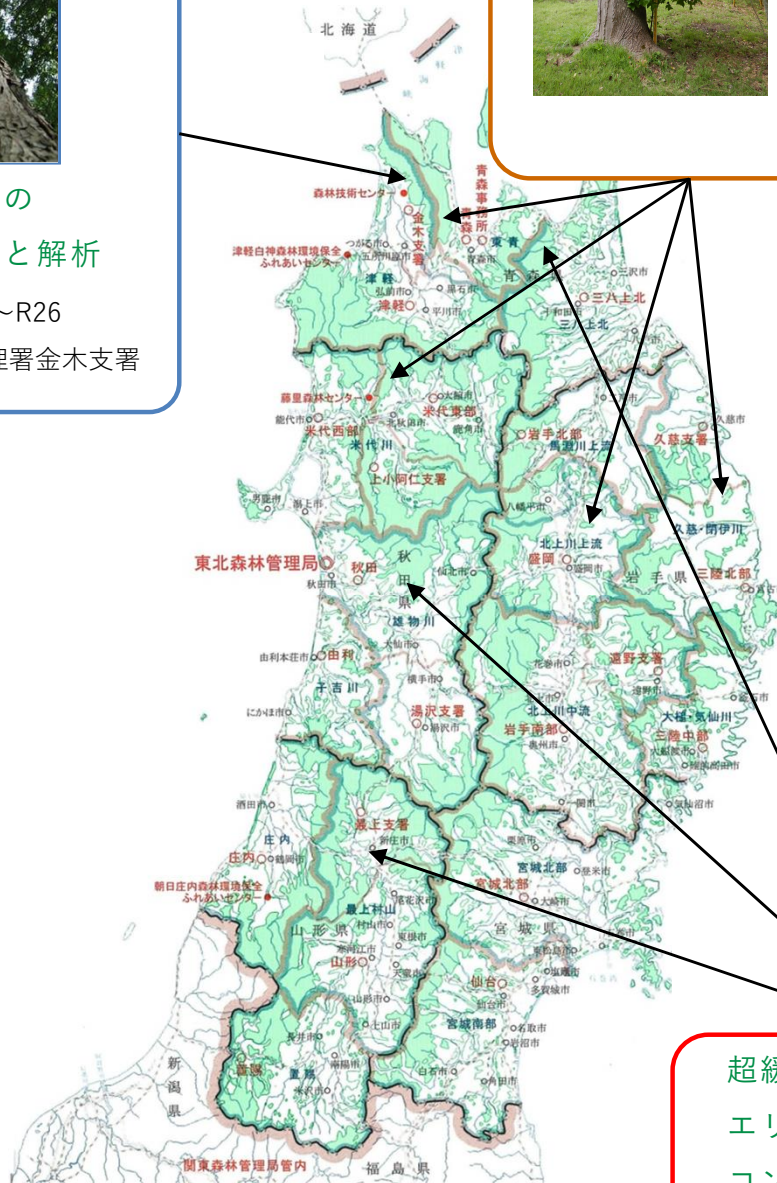
技術開発期間：R5～R9

場所：青森森林管理署

三陸北部森林管理署

米代東部森林管理署

岩手大学演習林など



課題 3

超緩効性肥料を用いた
エリートツリー等
コンテナ苗の活用

技術開発期間：R7～R11

場所：三八上北森林管理署

秋田森林管理署

山形森林管理署最上支署

— 研究の成果を、地域へ —

森林・林業へ関わる皆様に向けて、研究成果の発表や現地検討会等を実施しています。また、最新の取り組み状況は「センターたより」としてHPへ掲載しています。



現地検討会



発表会



講師派遣

— フィールドや資料の提供 —

大学や研究機関等の要請に応じて、試験地等のフィールドや資料を提供しています。



カラマツ挿し木植栽試験



ユリノキの視察



ヒバ天然林の調査

— こんな取り組みもしています —

増川ヒバ施業実験林の調査及び資料の保管、ヒバの天然更新力を活用しスギ等人工林からヒバ林へ復元するプロジェクトのデータ分析、また、お申し込みによる公開講座等の業務も行っています。



増川ヒバ施業実験林の調査



ヒバ林復元の取組

— 早生樹（ユリノキ）の更新特性等と需給実態について（課題1） —

令和5年度から新規課題として、「更新特性」及び「生育特性」のさらなる深掘りに加え、木材流通を見据えた「需給実態」の検証に取り組みます。

早生樹（ユリノキ）に関する取組

技術開発課題「早生樹を使用した施業モデルの構築（H28~R2）」において、東北地方における早生樹の諸特性を明らかにするため植栽試験を実施しました。その結果、東北地方に適した早生樹としてユリノキの有用性が確認されたため、当センターでは造林樹種としての実用化に向け、追跡調査を継続して実施しています。

植栽
試験

▼ 植栽試験地



米代東部森林管理署（秋田県北秋田市）
三陸北部森林管理署（岩手県下閉伊郡田野畑村）

生育
特性

▼ 7 成長期経過



追跡調査

定期調査や保育作業の検討

新規調査

継続調査

利用
特性

▼ 間伐材



木材としての需給実態の調査

更新
特性

▼ 萌芽更新



▼ 実生更新



萌芽更新事例の収集と
外国産樹種としての影響評価

— ヒバ天然林施業のデータ収集と解析（課題2） —

令和7年度から新規課題として、次世代へ豊かなヒバ林を継承するため、今後20年間にわたり長期的なデータの収集及び解析に継続して取り組みます。

ヒバ天然林試験地に関する今後の取組

技術開発課題「ヒバ天然林施業の調査データ収集と解析（H7～R6）」において、青森県津軽半島に試験地を設置し、施業効果を検証しました。その結果、林分材積については、択伐から14年後の平成22年にはヒバ・広葉樹ともに伐採前の水準まで回復したと考えられますが、樹高成長の鈍化が認められたことから、ヒバの成長を阻害している広葉樹や成長不良木の伐採による光環境の改善が必要と考えられます。

今後は、施業前後における稚樹の発生状況やヒバの成長量等を継続的に調査し、施業効果の検証を進めます。



ヒバ天然林試験地の林況



伐採後発生したヒバ稚樹



広葉樹による被圧状況

— 超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の調査（課題3） —

令和7年度から新規課題として、造林の省力化・低コスト化の実現に向け、令和11年度までの5カ年にわたり、植栽後も効果が持続する超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の実用化を念頭に、成長量等の調査に継続して取り組みます。

エリートツリー等コンテナ苗試験地に関する今後の取組

試験地は、スギエリートツリー等コンテナ苗（超緩効性肥料あり）と同苗（肥料なし）の2区画に分けて植栽し、各区画の斜面上・中・下部に調査プロットを設け、定期的に成長量の調査を実施します。これにより、超緩効性肥料の効果や土壌、微地形等の影響を検証します。

また、次年度の下刈の必要性については、C区分判定（植栽木が周りの雑草木にどの程度被圧されているかをC1～4の4段階で判別します）に基づき下刈を実施し、省力化・低コスト化の効果を検証します。



植栽作業



植栽木調査



植栽木（超緩効性肥料あり）

— memo —

.....

.....

.....

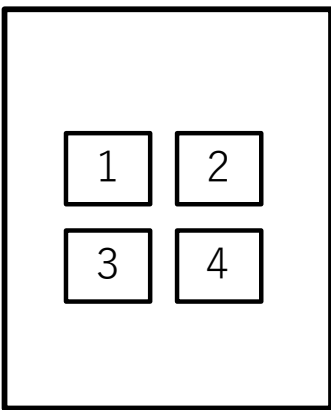
.....

.....

.....

.....

— 表紙の写真 —



- 1：早生樹ユリノキ7成長期（秋田県北秋田市）
- 2：早生樹ユリノキ成木（青森県青森市）
- 3：ヒバ稚樹（青森県北津軽郡中泊町）
- 4：ヒバ天然林内（青森県北津軽郡中泊町）

— お問い合わせ先 —



林野庁 東北森林管理局
森林技術・支援センター

〒037-0305 青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8

TEL：0173-57-9022

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/gizyutu/index.html>

HPはこちら

